住むほどに、宝物になる家。

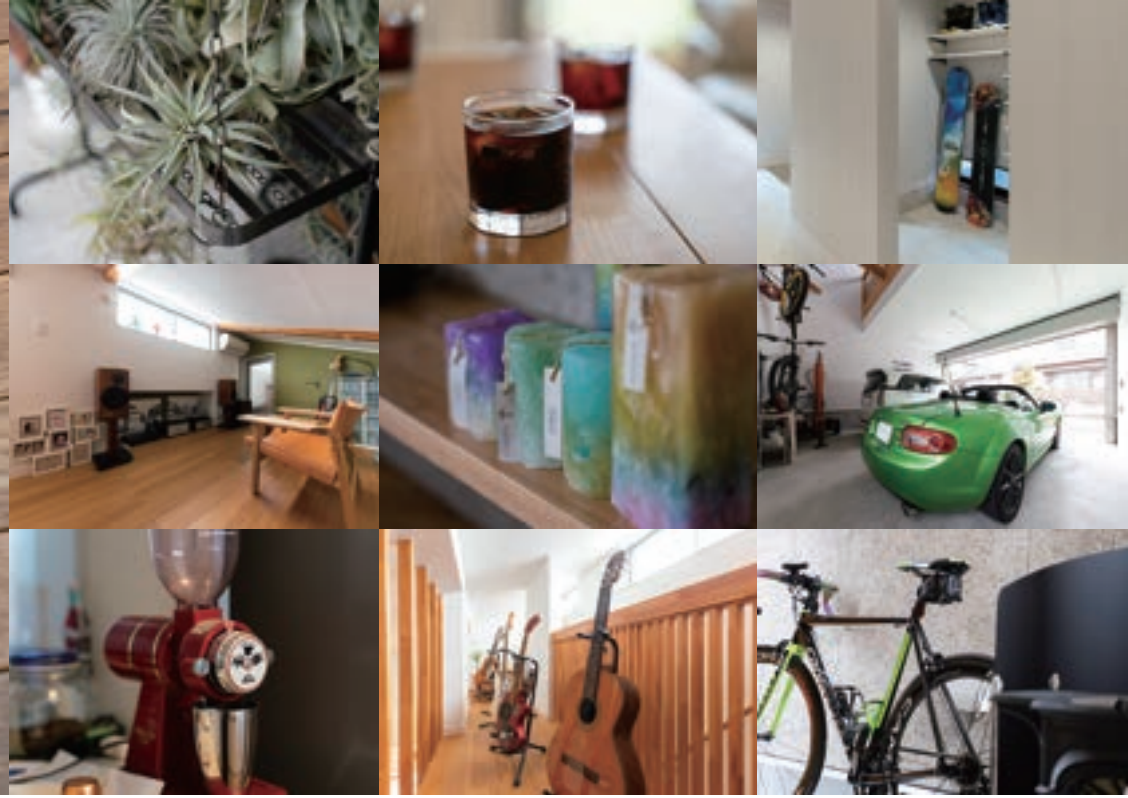
ARCHI LABO

男ゴコロ
くすぐる
住まい。

欲しいモノはトコトン調べた上で、本当に好きなモノを選びたい。
何かを始めるなら、道具にこだわり、その分野をしっかりと究めたい。
僕らの趣味は遊び半分なんかじゃない。仕事以上に情熱を注ぐライフワークだ。
ARCHI LABO は、そんな探究心に満ちた男ゴコロを満たす家づくりを全力で行っています。

Our Mission

歳月を経て価値が落ちていくのではなく、
使い込むほどに魅力が増す道具のような「住むほどに、宝物になる家」をつくる。
ARCHI LABO（アーキラボ）のミッションをご紹介します。



人生を楽しむ全ての人に向けた、時と共に愛着が深まる家を

せっかく建てる家が、どこにでもありそうな凡庸な家ではちょっと物足りない。だからと言って、有名建築家が設計するモニュメントのような邸宅に憧れているわけでもない。

家づくりをしてくれる会社が世の中に数えきれないくらいあり、どの会社も“心地よい暮らし”や“幸せな時間”という抽象的なキーワードを掲げて家づくりを行っている。「たしかにそうだな」と思う反面、どこかしっくりこない。そもそも、自分や家族が感じる心地よさや幸せって何だっけ…？

家を建てようと考え始めてから、そんな違和感に気付き、立ち止まる人が多いのではないでしょうか？

私たちは「住むほどに、宝物になる家」をコンセプトに掲げ、人生を積極的に楽しもうとする人が、充実した毎日を送るための家をつくっています。例えば、車やバイクをいじり、楽器を奏でる。音楽を聞き、映画を観て、植物に水をあげる。休日に向けて夜な夜なスノーボードやキャンプ道具のメンテナンスをする。薪ストーブの炎を眺めながら、クラフトビールや自然派ワインをたしなむ時間も大切にしたい…。

楽しむことに貪欲な人たちが生き生きとした毎日を送れる場所。それは、誰かに見せるためではなく、自分が好きなことに正直で居られる場所だと思います。私たちはそんな家を「住むほどに、宝物になる家」と呼んでいます。

土木の山内組から生まれた、住宅レーベル ARCHI LABO

加茂市鵜森に拠点を構える山内組は、昭和８年に創業した 90 年の歴史を持つ建設会社です。大工集団として始まった山内組は、インフラ整備などの土木分野で実績を重ね、2018 年に住宅レーベル「ARCHI LABO（アーキラボ）」をスタート。土木技術と建築技術を融合させた安心の家づくりを行います。

規格住宅ではなく、オーダーメイドで

誰にでも当てはまる規格住宅は合理的なものですが、私たちはあえて完全自由設計の住宅のみを手掛けています。住まいに求めるものは人によって少しずつ違うもの。可変性を持たせながらも、お客様のライフワーク & ライフスタイルに合わせた住まいをオーダーメードでつくります。

長期優良住宅＋地域密着のアフターサービス

住宅は５年や 10 年ではなく、40 年、50 年と長く使っていくものです。長きに渡って安心して暮らして頂けるように、全棟で長期優良住宅の認定取得を行っています。また、加茂市鵜森から半径 15km（車で 20 分）圏内を施工対応の目安とし、手厚いアフターサービスを行っています。

Seven Keywords

素材選びからプランニングのこだわりまで。
ARCHI LABO が設計のベースにしている７つのキーワードを紹介します。

1. Smooth Plan

ストレスのない空間をつくるには緻密な計画が欠かせません。流れるように滑らかな動線＋ゆとりを感じられるプランを提案します。

2. Nature Connection

リビングなどの家族がくつろぐ場所から庭や自然を眺められるプランを計画。視線が外へと抜けリラックスできる空間をつくります。

3. Long Life Material

無垢材や鉄、モルタル、木毛セメント板など、劣化しにくい素材や、経年変化が味わいになる、ロングライフな建材を使用します。

4. Buffer Zone

内と外の中間領域（バッファーゾーン）をつくり出します。自然が身近に感じられ、ゲストも気兼ねなく過ごせる交流の場になります。

5. Backend Design

リビングやダイニングの居住性を高めるには、収納や物干しなどの裏側の設計が重要です。家の表側・裏側の両方を合理的に設計します。

6. Flexible Space

全ての空間を造り込むのではなく、「可変性のある空間」を大事にしています。用途を決めない余白が、暮らしにゆとりをもたらします。

7. Life with Fire

薪ストーブのある暮らしを推奨しています。薪ストーブ初心者の方でも安心して始められるようにアドバイザーがサポートをします。

CASE 1

五千石の家／燕市

木毛セメント板とヘリンボーン
巧みなバランスで生まれる心地よさ

土間から見る LDK。オークのヘリンボーンに木毛セメント板の壁、シナ合板の建具や天井など、質感豊かな素材が調和した空間。

S 邸
延床面積　109.08㎡（33.0 坪）
竣工年月　2020 年 6 月

正面の窓から光が差し込む土間にはバーモントキャスティングス社の薪ストーブが鎮座。吹き抜けにより、暖気が２階まで行き渡る。

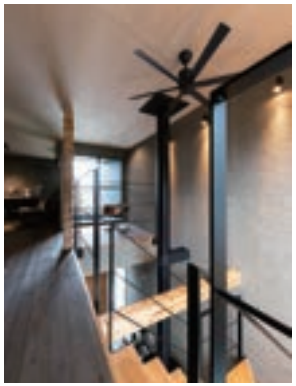
ロードバイクと薪ストーブが置ける広い土間

結婚を機に家づくりを考え始めたＳさん夫婦。はじめに住宅展示場を見て回ったが、規格外の広さを持つモデルハウスに現実感を見いだせなかったという。そんな時、仕事で山内組とつながりがあった職場の上司に誘われて、2018年秋に完成したばかりのARCHI LABOのコンセプトハウス（代表・山内孝明自邸）の見学に訪れた。家具が好きなＳさんは、家を建てたらバルセロナチェアを置きたいと考えていたが、コンセプトハウスの２階のセカンドリビングでその椅子を見つけた。そんな共感があり、リアルなスケール感も相まって、ARCHI LABOで家を建てようという気持ちが高まっていった。

2018年の晩秋に、ARCHI LABOの営業・保坂勇仁が土地探しのサポートを始め、提案を受けた中で最も条件が良かった現在の土地の購入を決めた。Ｓさんが新居に求めたのは、薪ストーブ、ヘリンボーンの床、そして猫と暮らすこと。「妻の実家では猫を６匹も飼っていて、新しい家で猫を飼うのは妻の強い希望だったんです」。ざっくりとした要望を伝えて、あとはARCHI LABOにお任せすることにした。その条件から山内が提案したのが、玄関に広い土間空間を設けることだった。「薪ストーブを入れたいという要望がありましたし、ロードバイクやエアプランツなどの趣味もお持ちでした。そこで、汚れても気にならない土間を広く取る案を考えました」と山内。玄関ドアを開くと、土間は一直線に空間の奥まで伸びており、手前にはロードバイク、中央には薪ストーブが並んでいる。その上は大きな吹き抜けで、正面の窓越しに外へと視線が抜ける。

そして、この家における最も特徴的な要素が壁の木毛セメント板だ。「猫を飼いたいということで、傷が付きやすいクロスは除外。そこでラフで味わいのある木毛セメント板を提案しました」（山内）。木毛セメント板は、削り出したヒノキの間伐材をセメントペーストで圧縮成型した建材。耐火性に加え、断熱性、吸音性、調湿性などの機能を備えているのが特長だ。壁の大部分がモノトーンで覆われたことで、木や鉄などの素材が際立つ空間に仕上がった。

外側をモルタルで仕上げたキッチン。右に見える引き戸の奥はパントリーで、そこに冷蔵庫が格納されている。



素材とディテールにこだわった、統一感のあるインテリア

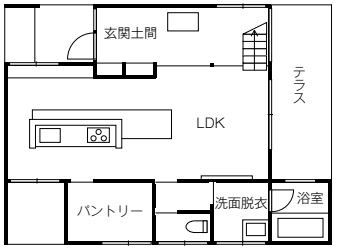
キッチンはクリナップ社のセントロで、ワークトップは黒いセラミック素材。マットな質感がこのLDKによく似合う。そのキッチンはレンジフードまでがモルタルで覆われている。「土間や木毛セメント板が使われる空間ですので、なるべく仕上げ材に統一感を持たせたいと思い、モルタルを選びました」（山内）。さらに、ダイニングテーブルとカウンターをキッチンと一体に造り込み、すっきりとしたキッチン周りが完成。ダイニングテーブルのスチール脚に注目すると、下部のスチール部分がフローリングに埋め込まれフラットに仕上げられている。足がぶつかることがなく掃除もしやすい機能的で美しい納まりだが、このような細部にARCHI LABOのこだわりと大工の技術力が現れている。

ちなみにこちらのキッチンには、冷蔵庫や電子レンジなどの家電や食器棚がない。その秘密は、キッチンのすぐ後ろに設けられた３畳のパントリー。そこに家電や食器、食品などがまとめて収納されているため、表側は見事に生活感が排除されている。これが、ARCHI LABOが提唱するバックエンドデザイン（裏側のデザイン）だ。

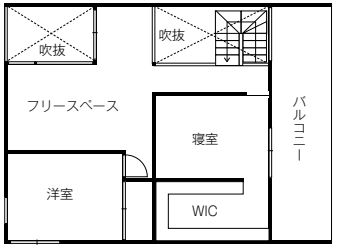
ソファに腰掛け、夫婦で映画やアニメを見たり、ゲームをして過ごすのがＳさん夫婦のお気に入りの過ごし方。カーテンレールが見えないようにシナ合板の天井で隠したり、壁と床の見切りに幅木を使わずアルミのフラットバーを採用するなど、ディテールの美しさも特徴。ちなみに１階の天井高は2,250mmとしているが、流通量が多い３×６板（サブロクバン、910mm × 1,820mmのサイズの板）を効率よく使える高さとしており、大工手間も材料費も上手に抑えることができている。

スチール階段を上がった２階は、パインの無垢の床で、１階とは趣が少し異なる空間。主寝室と将来子ども部屋として使える個室、そして、その手前にはラウンジのような空間が配されている。スポットライトで照らされた室内は、１日の終わりにゆっくりと自分の時間に浸るのにいい。この家に住んでから、奥様は特に用事がなければ無理に外出をすることがなくなったという。「僕は休みの日はどこかへ出掛けるタイプだったんですが、最近は妻と同じように家に居たいと思うようになりました」（Ｓさん）。

10月に入り、薪ストーブに初めて火を入れる日が近付いてきた。「薪ストーブを何年も使っている保坂さんは僕の師匠。薪ストーブの使い方を教えてもらったり、薪の調達などでも保坂さんにお世話になる予定です」とＳさん。Ｓ邸の延床面積は33坪。特別に広い家ではないが、薪ストーブを中心に据えた仕切りの少ない住まいは開放的で、たくさんの居場所が散りばめられている。もうすぐ新潟に悪天候が続く寒い冬が訪れる。しかし、Ｓさん夫婦にとっては、ストーブを中心とした温かな暮らしを味わえる特別な季節になりそうだ。



1F



2F

CASE2

三竹の家／三条市

ガレージに中庭、薪ストーブ…。第二の人生を気ままに楽しむ

仕切りが少なく開放的なリビング。ロフトのような２階は勾配天井で繋がっており、薪ストーブの暖気は２階にも行き渡る。

伊藤邸
延床面積　140.48㎡（42.5 坪）
竣工年月　2011 年 3 月

CASE 2　三竹の家／三条市

壁一面にシンプルな収納棚をしつらえた玄関。正面に見えるリビングの先の庭まで視線が抜けていく開放的な設計が特徴。

工房を併設した、目立て職人の住まい

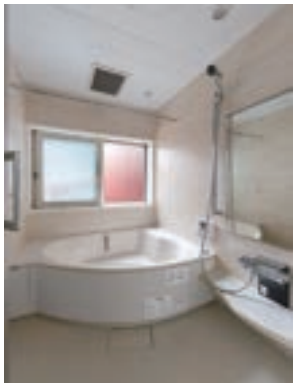
三条市三竹は住宅と事業所が入り混じるエリア。金属加工会社や卸問屋が点在する町並みは、いかにも金物の町・三条らしい風景だ。この町で 2011 年に住まいを建て替え 9 年が経過した、伊藤さんご夫婦の自宅を訪ねた。東西に長い敷地を持つ伊藤さんの家は北側道路に接している。2 階に高窓が並んでいるが、北面の大部分がガレージと壁。ガレージ内には緑色のロードスターが格納されている。

ガレージのすぐ左側にドアがあり、その横には「伊藤目立所」と書かれた表札が見える。伊藤さんは目立て職人で、この家は工房を併設した職住一体の建物だ。目立てとは、鋸（ノコギリ）の刃がつぶれてにぶったものを鋭くすること。伊藤さんは金物屋からの依頼を受け、何十年もこの目立ての仕事を続けてきた。かつては手鋸の目立てをやっていたが、今は機械用の鋸の刃を研磨している。「昔は三条に目立て屋がたくさんあったんですが、もうほとんどなくなってしまいましたね」と伊藤さん。ドアを開けると 4 畳の細長い工房があり、奥のドアから通り抜けることもできる。研磨用の機械を使い、刃にミストをかけながら研磨作業を行うという。

一度外に戻り、工房の左側に設けられた大きな木製ドアを押してみると、壁で囲われたアプローチへとつながる。敷地に建物を配した後に残ったスペースだが、土地形状に合わせてつくられた鋭角なコーナーを回るスロープが、玄関と道路の高低差を解消するように伸びている。緩やかなスロープはオンとオフを切り替える装置のようでもある。その突き当たりは中庭のような空間。屋根が架かったポーチがあり、雨が当たる場所には庭木が植えられている。「友達が遊びに来ると、ここのベンチに座ってお茶をすることも多いですよ」と奥様。壁に囲まれた屋外空間は何とも言えない安心感があり、外の空気も気持ちいい。玄関の横には浴室があり、伊藤さんは風呂上がりにここで夜風に当たりながら過ごすのがお気に入りなのだそう。これが ARCHI LABO が提唱するバッファーゾーン（中間領域）で、外でも中でもない空間には独特の心地良さがある。

CASE 2　三竹の家／三条市

ハンス・J・ウェグナーのYチェアが置かれたカウンター。右上に見える照明はイタリア・FLOS社のアルコランプ。



柔らかい桐の床に、ホテルライクな水回り

玄関ドアを開けると、奥の庭まで視線が抜ける奥行きのある空間が広がっている。床は柔らかい桐の無垢材。完成時には白っぽかった床は、時間を掛けて現在の飴色に変化した。「桐の感触が気持ちいいのでスリッパは使わなくなりました」と奥様。靴を脱いですぐ左側は洗面脱衣室・トイレ・浴室。白いタイル床ですっきりとまとめられた洗面脱衣室とトイレの間に建具はなく、海外のホテルのようにひとつながりになっている。浴室はゆったりとした1.25坪タイプで、窓の向こうには壁で囲われた中庭が眺められる。人目につかない場所なので、窓を開けて開放的なバスタイムを楽しめる。

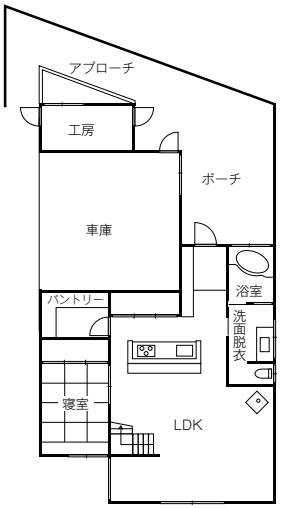
再び玄関前に戻ると、手前にキッチン、奥には勾配天井で上へと伸びるリビングが広がる。部屋の一角に鎮座しているのはヨツール社の薪ストーブ。庭の薪棚には大量の薪が保管されている。毎年春になると伊藤さんは軽トラで山へ入り丸太を調達。それを薪割り機で割っていく。冬は薪ストーブ1台で家全体をポカポカに暖めることができる。

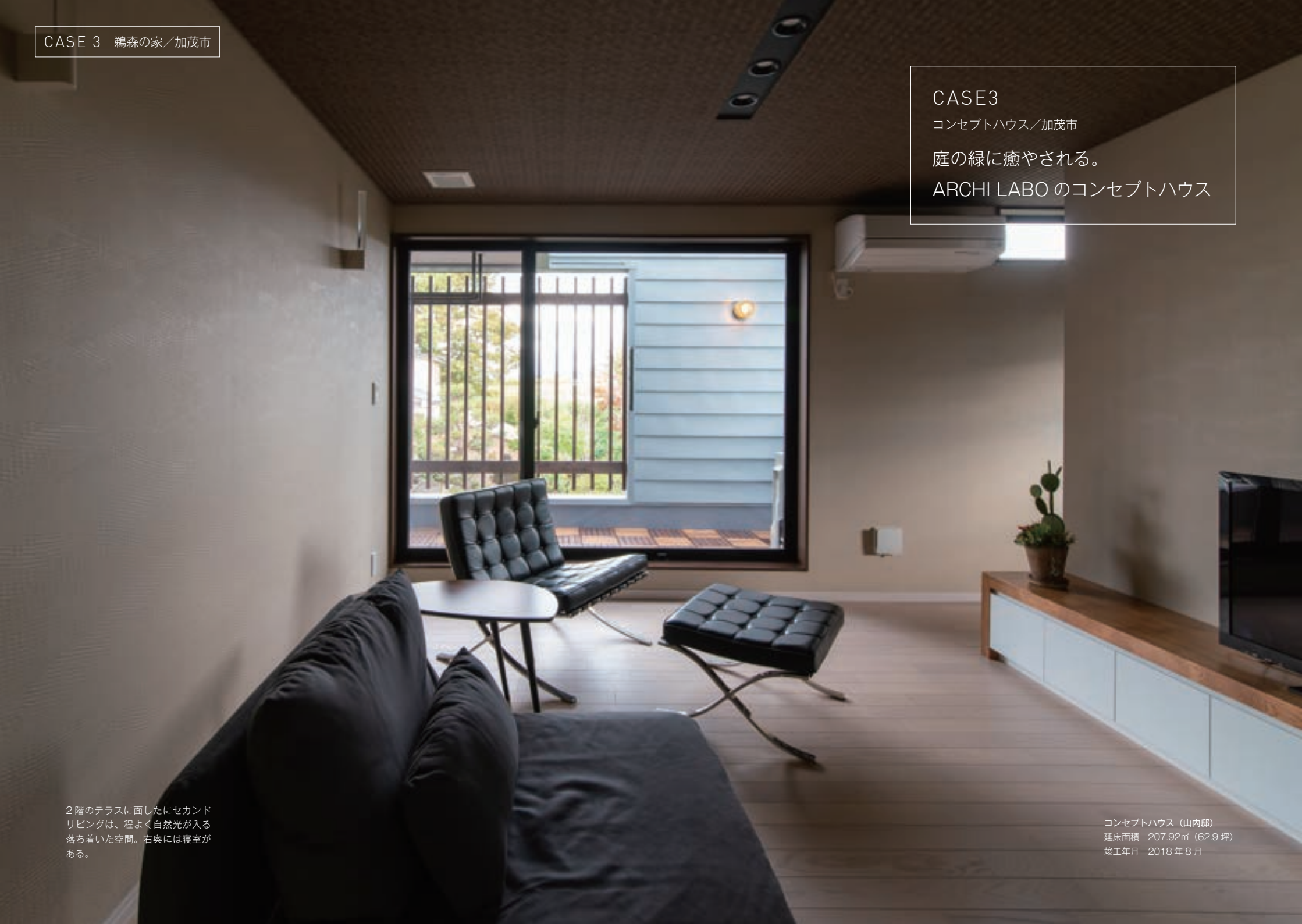
勾配天井でロフトのような2階へと空間が続いていくが、そこには高窓が並んでおり、日中は安定した北側の光が入り込む。「真北ではなく少し西向きになっているので、夕方日が差すと格子の影がきれいに壁に映るんですよ」（奥様）。落下防止のための格子状の柵は、1階の天井とつなげて空間のアクセントにしている。その縦格子と呼応するように、白い丸管が階段の踏板に固定されているが、これは階段を吊る機能を持ったデザインだ。

キッチンは両側から入れるアイランド型で、前面はタイル張り。カウンターは食事だけでなく、裁縫を趣味とする奥様がミシンで作業をするのにも重宝している。階段を上がった先は伊藤さんのオーディオルームで、スパニッシュチェアに座りながら音楽を楽しんでいるという。そして、その奥には伊藤さんのギターコレクションがずらり。他にも40歳を過ぎてからスノーボードに挑戦をしたり、マウンテンバイクでダウンヒルを楽しんだり、さまざまな趣味を経験してきた伊藤さん。60代になった現在はジムトレーニングにはまっているという。

一方、生活のしやすさという面では、「収納量がちょうどいい」と奥様は話す。かつては不要品を溜め込みがちだったが、この家に住んでからは必要な物だけで暮らせるようになったという。「人は家で変われるんだと思いました。それに、10年近く経っても家のパワーが落ちないんです。孫たちも気に入っていて、ここに遊びに来るのを楽しみにしてくれています」（奥様）。子育てを終えた後に建て替えをした伊藤さん。それは夫婦2人で暮らすのにちょうどよく、第二の人生を思い切り満喫できる家だ。

ゆとりを持ち、趣味を楽しみながら暮らす伊藤さんご夫婦。くつろいだ空気が満ちた住まいは、夫婦と共にゆっくりと年を重ねていく。





CASE3

コンセプトハウス／加茂市

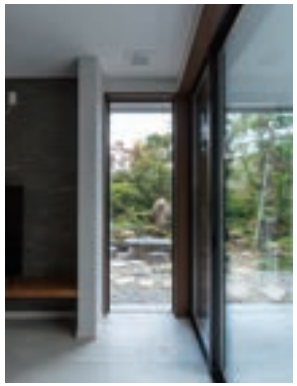
庭の緑に癒やされる。ARCHI LABO のコンセプトハウス

2 階のテラスに面したにセカンドリビングは、程よく自然光が入る落ち着いた空間。右奥には寝室がある。

コンセプトハウス（山内邸）
延床面積　207.92㎡（62.9 坪）
竣工年月　2018 年 8 月

CASE 3　鵜森の家／加茂市

タイルの床が広がるリビングは、色や要素を削ぎ落したミニマルな空間。それにより、庭の緑が引き立って見える。



新旧二つの庭に囲まれた、四季を味わう住まい

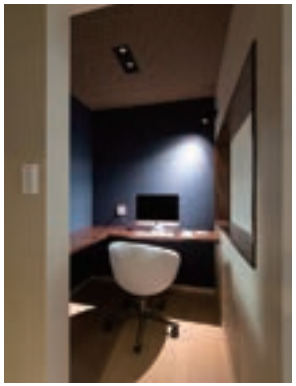
ARCHI LABO のコンセプトハウスでもある代表・山内の自邸があるのは、信濃川のほとりに広がる集落、加茂市鵜森。果樹園と畑と住宅が入り混じる昔ながらの風景が今もなお残されている。完成したのは 2018 年。このコンセプトハウス兼自邸の完成を機に、ARCHI LABO が本格的に始動した。

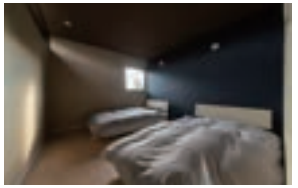
この家は、山内組の本社から数十メートル程の場所にある。南側の土手と北側の実家に挟まれた場所で、河川区域という土地のため、土手から少しセットバックする必要があった。鵜森集落に立つ家は板張りの外壁が多く、隣に立つ実家も板張りだ。周囲との対比と調和を意識し、東側は杉板押し縁で仕上げている。入口をピロティにしているのは、すぐ右側に立つ実家に対しての圧迫感を和らげるため。三角屋根にピロティとベランダが見え、伝統的な要素を用いながらも現代的に美しくまとめている。ピロティは駐車スペースで、雨天時でもスムーズに家と車を行き来できるほか、スノーボードのワックス掛けやゲストと立ち話をするのにも便利な場所となっている。一方、建物左奥はガルバリウム鋼板で全く異なる表情に仕上げている。周辺環境との調和を意識しながらも、自由度の高い建築を目指す ARCHI LABO の姿勢が現れており、そのハイブリッドな外観がコンセプトハウスの特徴となっている。

建物の南側には 2 つの庭がある。伝統的な和風庭園は先代が造り上げた庭で、LDK の正面に見えるのが今回新しく造った庭だ。庭の後ろにはコンクリートの壁が見えるが、この壁は土手の法面（のりめん）に造られている。元々ここには土手から入れる古い建物が立っていたが、その建物を取り壊した際に残った基礎部分がコンクリート壁の正体だ。この庭を造ったのは同じ加茂市の造園会社 EN GARDEN WORK の小川俊彦さん。住宅工事が始まる前の更地の現場を見てもらい、既存の庭との調和をテーマに作庭を依頼した。コンクリート壁は古い遺跡のようでもあり、ネガティブな要素と思われたものがむしろ独特の情感を感じさせるものとして見事に緑と調和している。

CASE 3　鵜森の家／加茂市

キッチンに立つと、ダイニング、インナーテラス、土手の法面を利用した庭までを見渡すことができる。





合理的な裏手の設計で叶える、シンプルで美しいリビング

玄関に入ると現れるのは、白を基調としたシンプルな空間。土間と同様に廊下の床もタイルで仕上げており、統一感を感じさせる。2.5 畳分のクロークは家族 4 人の靴はもちろん、スノーボードなどの道具も余裕で収まる。可動棚で棚の位置を自在に変えられるので、さまざまなサイズの物に対応可能。廊下は間接照明を中心にしたことで天井のデザインもすっきりと仕上がっている。

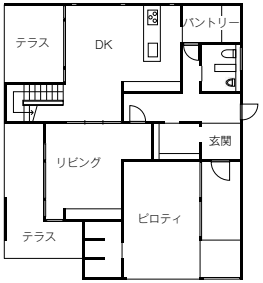
その次に現れるのは、約 12 畳のリビング。こちらの床も全てタイル仕上げ。大きなソファがゆったりと置かれ、窓から庭を鑑賞できる設計だ。床暖房が仕込まれているので、見た目のクールさとは対照的に冬はポカポカと暖かい。東側に切られた FIX 窓からは先代が造った和風庭園も望める。色味を抑えたリビングから見る庭の緑が鮮やかに目に飛び込んでくるが、このリビングは内部だけで完結するのではなく、庭との融合により完成している。ARCHI LABO が考える「Nature Connection」という概念で、自然との視覚的なつながりをつくりだすことにより、リビングを一層くつろげる場にしている。

リビングの隣はダイニングキッチン。スチール階段がリビングと DK をそれとなく分けており、リビングの引き戸を閉じて完全に分離することもできる。そして、リビングと同様にダイニングキッチンからも庭を眺められる。窓の外はインナーテラスで、イスに腰掛けて気軽にアウトドアを楽しめる。目の前の土手の上は車道になっているが、インナーテラスがバッファーゾーン（中間領域）となり、外から家の中が丸見えになることを防いでいる。

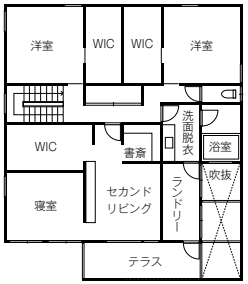
キッチンはセラミックトップ。前面パネルはウォルナットの突板仕上げで洗練された家具のようでもある。奥の引き戸の先には 3 畳のパントリーがあり、冷蔵庫もその中に収めることで、生活感を感じさせないシンプルなキッチンが完成している。ちなみに、手前に置かれたダイニングセットは、先代が残した神代杉（水中や土中に長年埋もれていた希少な杉材）を製材したもの。独特の木目が特徴だ。

2 階に配されているのは子ども部屋と、夫婦の寝室、水回り。東側にある夫婦の寝室にはセカンドリビングが設けられており、ソファに腰掛けてここでもゆっくりとくつろげる。窓の外にはテラスがあり、気候のいい時季には、気軽にアウトドアでのひと時を満喫できる。2 階の奥には、洗面脱衣室・ランドリー・浴室が配されており、4 畳のランドリーでは天井に取り付けられた 2 本のスチールパイプにたっぷりと洗濯物を干せる。そこから奥のテラスに出られるので、外干しもスムーズだ。

ロングライフな杉板やガルバリウム鋼板の外壁、庭との連続性を重視した設計、ランドリーやパントリーなどの裏手の計画。さまざまな視点から、合理性や心地よさを突き詰めたこの家には、ARCHI LABO が大事にしている概念が凝縮している。



1F



2F

Member

設計・山内と営業・保坂の２名で連携し､密なコミュニケーションを取りながら家づくりを行います。

ARCHI LABO 代表／一級建築士

山内 孝明　Yamauchi Takaaki

1981 年生まれ、燕市出身。設計事務所・工務店で経験を積み、2011 年に株式会社山内組入社。2018 年に住宅事業「ARCHI LABO」を立ち上げる。趣味はスノーボード。

設計の中でもプラン（平面）に特にこだわりを持っています。スムーズな移動を叶える動線や窮屈に感じないスペースの確保などを平面図上で何度もシミュレーションし、ストレスのない住まいを実現します。

ARCHI LABO 営業／薪ストーブアドバイザー

保坂 勇仁　Hosaka Hayato

1972 年生まれ、埼玉県越谷市出身。薪ストーブ歴 13 年。薪割後にクラフト系ビールを飲むことが何よりの楽しみ。趣味はオールドランタン収集と、愛犬と戯れること。

元々キャンプで行う焚き火が好きで、新築時に薪ストーブを入れました。VermontCastings 社の ENCORE を愛用していますが、全てにおいて心地よい薪ストーブが今では生活の中心になっています。

Spec

ARCHI LABO の性能・仕様、アフターサービス内容をまとめました。

長期優良住宅

劣化対策・耐震性・可変性等の基準を満たした長期優良住宅を標準仕様としています。税制優遇も受けることができます。

耐震等級２以上

建築基準法で定められている耐震性能（＝耐震等級 1）の 1.25 倍の地震に耐える強度を備えた家を提供しています。

UA 値 =0.46 以下

住宅の断熱性能を示す外皮平均熱貫流率（UA 値）は、HEAT20 の G1 基準をクリアする 0.46 以下としています。

定期点検

建物完成後、半年、1 年、3 年、5 年、10 年の定期点検はもちろん、不具合があった場合はなるべく早く駆けつけます。

可変性

住宅に求められる間取りは、家族構成の変化と共に変わっていくものです。間取り変更がしやすい平面計画を行っています。

バリアフリー

移動に伴う転倒・転落の防止並びに、車いすでの生活がしやすい設計を行い、将来も安心して暮らせる住まいを提供します。

Wood Stove Support

薪ストーブの使い方のアドバイスから、薪の調達・トラックのレンタルまでをサポートします。

薪ストーブの使い方サポート

基本的な使い方・メンテナンス方法・注意点をアドバイスします。

無料の薪の供給

当社周辺の果樹園で剪定された木を薪として提供できます。

トラックの貸し出し

オーナー様へ当社のトラックの貸し出しサービスを行っています。

ARCHI LABO

株式会社山内組
本社：〒 959-1306 新潟県加茂市大字鵜森甲 218　TEL：0256-52-6423
E-MAIL：yamauchi@alto.ocn.ne.jp
URL：www.archilabo.niigata.jp

yamauchigumi_archi_labo